

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年9月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1171700469
法人名	メディカルケアサービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム鴻巣
所在地	〒365-0052 埼玉県鴻巣市登戸309-1 (電話) 048-595-3700
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年9月5日

【情報提供票より】(平成20年8月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 10人, 非常勤 2人, 常勤換算	16.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	40,000円+実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日あたり 900円			

### (4) 利用者の概要(8月26日現在)

利用者人数	17 名	男性 8 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 75 歳	最高 91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	こうのす共生病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の経営する当ホームは、新興住宅地として開発が進んでいる環境の中にある2ユニット2階建のグループホームである。利用者は職員の見守り支援のもとそれぞれのユニットを自由に行き来しており、家族の訪問を受けて明るく和やかに談笑する利用者の表情が印象的である。管理者は自治会や消防団などと良好な関係を築きながら、ホームとしての機能や資源を地域に還元しようと、一歩進んだ地域密着を試みている。ホーム主催の夏祭りでは、職員が手分けをして地域に案内状を配り、当日は多数の近所の子も連れ家族の参加があった。管理者と職員の思いが確実に地域に根付いており、努力と工夫で頑張っているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との連携・災害対策においては、夏祭りで近所の参加を得たり、消防団との連携を図るほか、秋には地域合同の消防訓練が開催予定になるなど、改善に向けた取り組みが着実に進んでいる。研修については、本部研修を行うとともに、外部研修も受けられるように出来るところから取り組み始めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善には取り組んでおり、評価の意義も理解しているが、職員全員による自己評価への取り組みまでには至っていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2、3か月に1度開催されており、家族会、地域包括支援センター、民生委員、自治会長の参加がある。会議では、活動実績や前回の検討事項の経過報告など行っており、家族会からの要望や自治会からの提案事項などをホームの運営に反映させている。行事などに関するお互いの提案に対して活発な意見が出され、その実現に向けて地域とのつながりがより深いものとなっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会や運営推進会議で、家族の要望や意見など聞く機会を設けている。また、面会時には声かけをし、直接話し合える場を作るようにしている。表出された要望や意見などについては本部に報告をしたり、ホームでミーティングを行いながら運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩などの外出時の挨拶など、地域住民とのかかわりを密接に行っている。また、夏祭りの招待状を訪問して手渡しをすることで急速に距離が縮まり、夏祭りはたくさんの家族連れでにぎわった。地域の消防団とも行き来があり、秋には地域全体の消防訓練をホームの庭で行うことが決まっている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本部の理念を柱としながら、事業所独自の理念を作り上げている。現状にあった理念に作り変えるなど、地域密着型サービスの意義を職員全員が理解するものになっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時に職員全員で唱和をすることで理念を確認しあい、その理念を日々のケアに活かす努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩など外出時の挨拶をはじめ、地域住民とのかかわりを密接に行っている。近所の方を訪問して、夏祭りの招待状を直接手渡しをすることで急速に距離が縮まり、夏祭りはたくさんの家族連れでにぎわった。自治会主催の福祉用具の使い方講習会に協力するなど、ホームの資源を地域に活用してもらう取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については理解をしているが、自己評価については全職員による取り組みまでには至っていない。		職員全員が評価の狙いや活用方法を理解することに努め、全職員で自己評価に取り組み評価を活かしていくことを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2、3か月に1度、運営推進会議を開催している。会議では、家族会、地域包括支援センター、民生委員、自治会長の参加を得て、活動実績や前回の検討事項の経過報告など行っている。家族会からの要望や自治会からの提案事項など、表出された意見をホームの運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市開催の福祉連絡会などに出席しながら市との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に声かけをして利用者の近況を話すようにするとともに、体調の変化などについては電話連絡をして状況を伝えている。また、毎月の請求書送付時に金銭出納帳を同封して報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には苦情窓口を明示して、意見や要望を出してもらえるような雰囲気作りに努めている。表出された意見や要望については本部に報告するとともに、職員間で話し合い反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	大きな職員の異動はない。新任の職員には研修を行いながら慣れるまで馴染みのスタッフが一緒にケアするとともに、利用者へのダメージを防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部の研修やホームでの研修を受けている。職員同士で研修の内容を報告しあい、全職員が共有できるようにしている。また、研修内容によって外部の研修を受けることもある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会には入会しているが、現在のところ同業者の交流がない。	○	管理者は同業者との交流の重要性を認識している。サービスの質の向上と職員のスキルアップのためにも同業者との交流が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族の見学から始め、昼の間ホームで過ごしてもらったこともある。病院から直接入居するなどのやむを得ない場合は、居室を本人の馴染みのもので揃えるなど環境を整えて、安心感を持ってもらえるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は一方的にケアをするだけでなく、利用者から労ってもらったり励ましてもらったことがある。共に暮らし支えあうことの喜びを利用者と職員が共有しており、職員は利用者からの労りの気持ちに対して、深い感謝とともに仕事の励みになっている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で、本人の思いや意向を汲み取ることができるように、表情や言葉を大切にしながらケアに取り組んでいる。把握することが困難な場合は、家族や職員間で話し合い検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の思いや要望を感じ取りながら反映させるようにしている。訪問看護師やかかりつけ医の意見も含めて職員で話し合いながら介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しのほか、本人の状態にあわせていつでも見直せるようにしている。介護計画に沿ったチェック表を活用しながら検討見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の往診や定期的な訪問看護師による体調のチェックなど、医療の連携が利用者の安心につながっている。お墓参りや受診時の付き添いの支援など、状況に応じた支援がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族とかかりつけ医について話し合いをしている。ホームのかかりつけ医のほか、入居する前からのかかりつけ医を受診している利用者についても、家族の都合によっては通院介助を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や体調変化などの折に繰り返し家族と話し合いの場を持ち、確認し合っている。現在、ホームでの看取りの方針を模索している。		事業所が現在の対応し得る最大のケアについて、管理者と職員で話し合うことは、これからのホームの運営について大切なことである。本部の意見も聞きながら、事業所独自の方針を管理者、職員、家族も含めて話し合いの上統一し、共有していくことを期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけないよう、トイレ誘導や入浴などに対する言葉かけや態度について、職員間で注意を払っている。記録などの取り扱いにも注意し、重要なものについては保管場所を徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの思いを大切にしながら、その時の本人の思いに出来るだけ添うように支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は2ユニットで一括に調理されているが、利用者の馴染みの食器やお箸が使われており、職員と一緒にテーブルで和やかな食事場面が提供されている。月1回調理活動が設けられているほか、ホームでバイキングを楽しんだり、月に1度は外食にも出かけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後入浴できるように支援しており、利用者同士で仲良く入浴をする姿も見られる。現在は入浴を嫌がる利用者はいないが、声かけやタイミングなどを計りながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	夏祭りで催されたダンスを楽しんだり、字の上手な利用者には食事の献立表を書いてもらったり、それぞれの得意な分野で力が活かされるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所に散歩に出かけたり、ホームの庭で外気に触れたり、出来るだけ利用者の希望に添えるように外出の機会を設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上施錠されているが、職員の見守り体制が出来ており、利用者がそれぞれのユニットの1階と2階を自由に行き来している。また、利用者の外出したい様子を察知したら、職員が付き添って対応するようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち合いのもと訓練を実施している。また、地域の自主防災組織とも協力体制ができている。食糧や飲料水の備蓄もあり、災害マニュアルに沿って職員間で常に話し合いの機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームの栄養士により献立が作られ、一人ひとりの状態に合わせた食事形態がとられている。食事や水分の制限のある利用者にはチェック表があり、そのほかの利用者についても職員が概ね把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関のスペースはゆったりとしており、居間では両側にある窓から風や光などが感じられる。廊下の突き当りにはベンチがあり、利用者や職員の憩いの場所になっている。季節の装飾や利用者の描いた絵などがさりげなく壁に飾ってあり、安心できる共用空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥や椅子など利用者の使い慣れた馴染みのものが置かれている。仏壇が置かれている居室もあり、個々の居室づくりがなされ、本人の居心地のよい空間になっている。		